



Colors, Future!

いろいろって、未来。

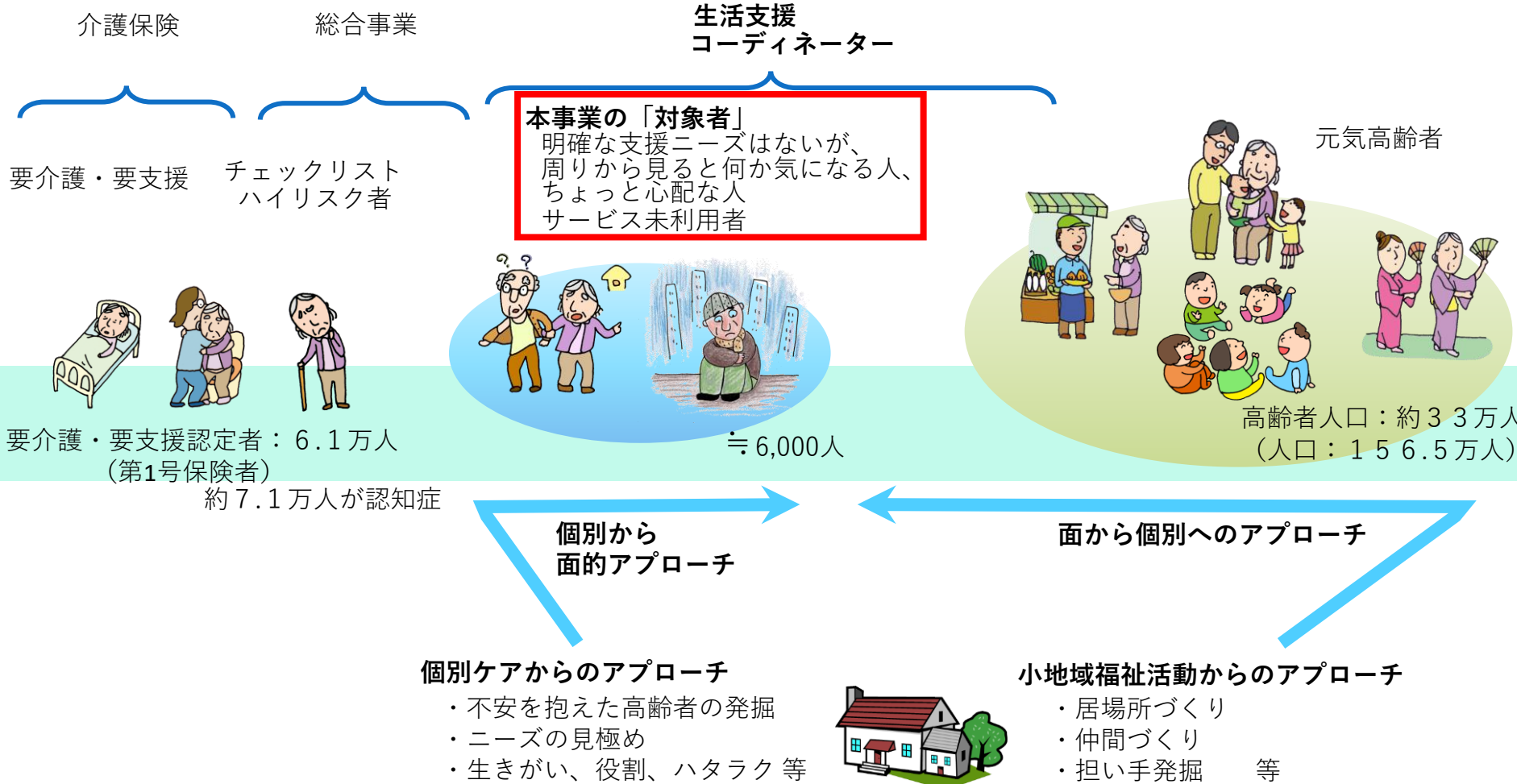
川崎市

令和6年度地域密着型サービス運用セミナー

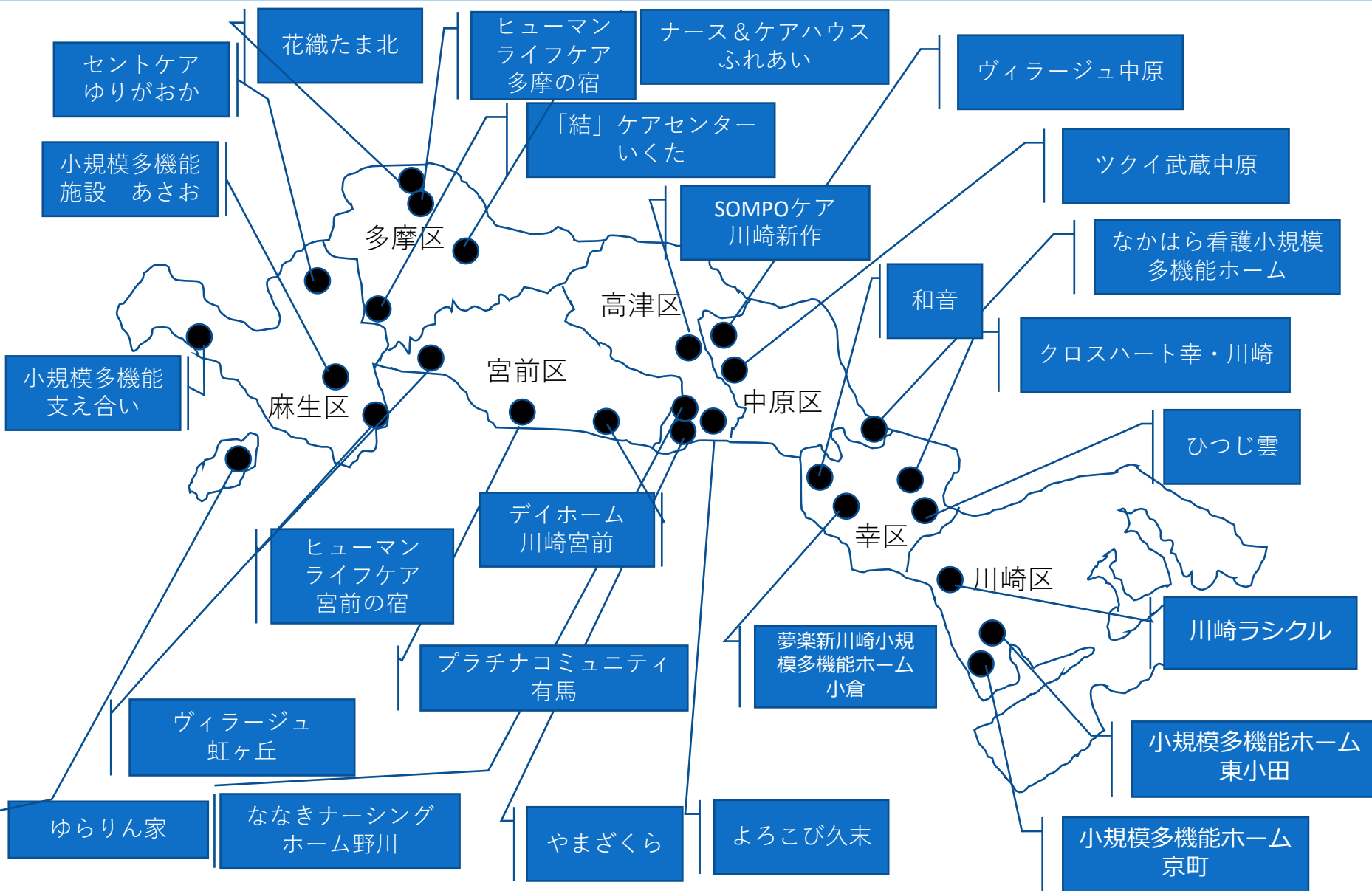
**“小規模多機能”は在宅生活継続のために、どのように使う道具なのか
～川崎市生活支援コーディネーター取組～**

川崎市健康福祉局地域包括ケア推進室
地域保健担当

介護サービスの枠を超えて、地域との関係づくりや様々な支援に取り組んでいる（看護）小規模多機能型居宅介護事業所の活動を支援することで、（看護）小規模多機能型居宅介護事業所と地域の様々な主体との協働による「地域の生活課題解決」や「閉じこもりの予防」に取り組めます。26事業所がそれぞれの強みを生かして本事業の「対象者」へのアプローチを試みている。地域を回り、近所が心配している高齢者等へ個別のアプローチを試みている取組や、他方、居場所や仲間づくりを念頭に、イベントや講座を開催するなどの小地域活動からのアプローチなど、様々な取組から着手している。



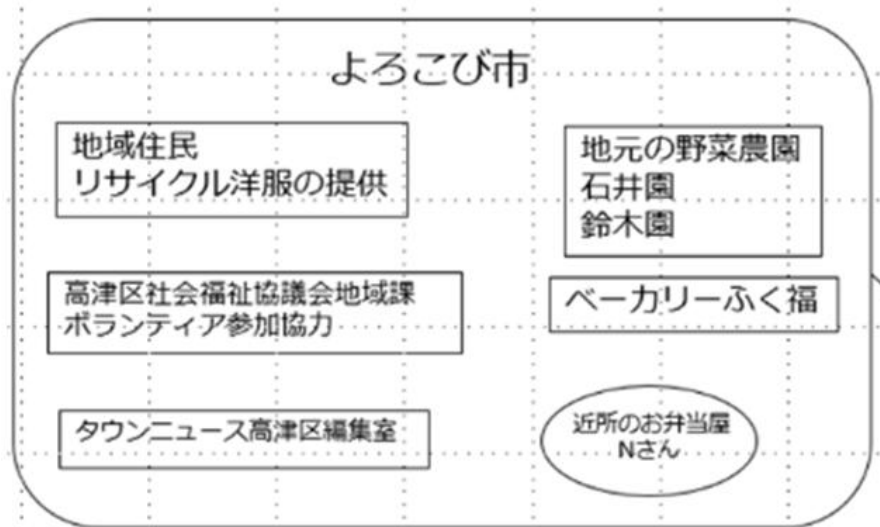
生活支援コーディネーターの整備状況（令和6年度）



全26事業所（令和6年10月現在）

取組の原点(ゆらりん家)





地元で人気
パン屋さんのパン販売



地元の農家さんの野菜の販売



洋服の無料リサイクル

よろこび市を事業所前で開催 毎月2回 土曜日

個別ケアからのアプローチ

- ・地域で活躍をしていた人がMCIの診断を受け、やる気を喪失。
- ・MCIについての正しい情報を伝え、意欲を後押し、通える場リストを作成し、本人の行動を後押し
- ・結果的に自発的な活動を起こすきっかけとなり、家族以外の地域とのかかわりができた。

生活支援コーディネーターの動き

①MCIは 病気じゃない！
(気持ちを後押し)

認知症の前段階を「軽度認知障害 (MCI)」といい、この段階で、ご自身の状態を把握し、適切な対策をすることで、認知症への進行を防ぐことができます。(川崎市HP)

②通える場リストを作成

日ごろのSCの地域周りで、地域の通える場の把握につながっている

③家族の行動を見守る

Mさん家族も、MCIをきっかけに、家庭内で認知症について勉強を開始

④行動を後押し

SCとしての取組は気持ちを「つなぎ」活動に「つなぐ」こと

Mさん

MCIの診断

そうなの?!

通える場一覧

1. 俳句
2. 囲碁
3. 読書を語り合う会

気持ちが前向きに

Mさんの様子

絶望

R 5年2月頃
・誰にも会いたくない・・・
・何もしたくない・・・
・もういいよ・・・

気持ちの変化

R 5年6月頃
「行ってみようかしら」

家族の意欲も向上

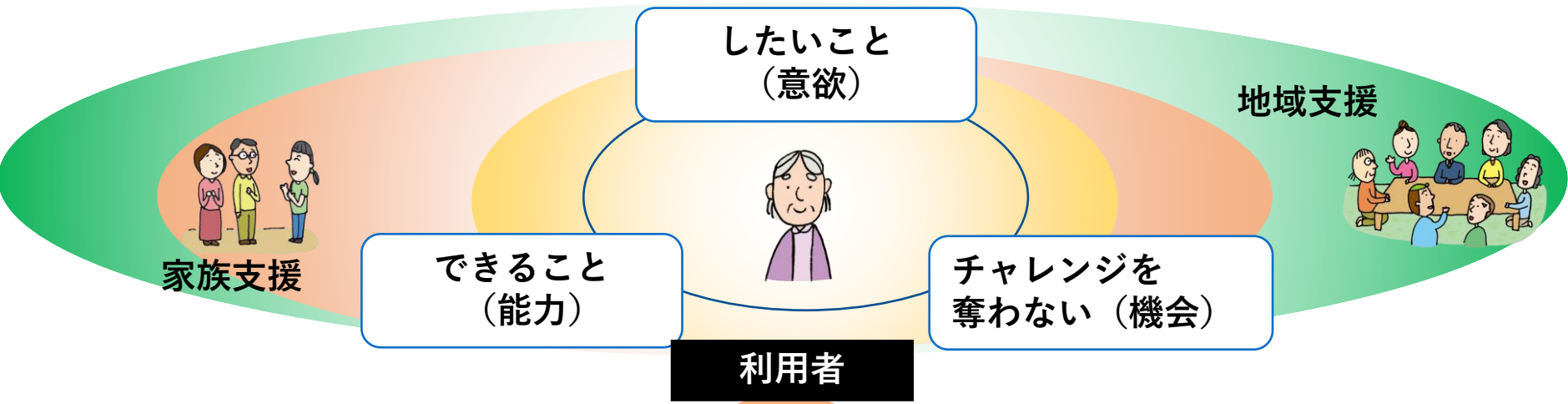
【家庭内勉強会】
Mさんが苦しんでいるMCIや認知症とは何か、家族も学ぶ

取り戻した
Mさんらしさ

R 5年6月頃
「この前囲碁に
行ってきたよ！」

地域との関わりを持ち、本来の活動的な人に⇒事業所ボランティアに参加

(看護)小規模多機能型居宅介護の実践



(看護) 小規模多機能型居宅介護

接着剤 = 運営推進会議・サロン・食堂等

家族支援

※家族と一緒に本人を支える (協働)

地域支援

※民生委員や自治会、ご近所と一緒に本人を支える

役割機能

(持っている力を生かす)

居場所機能

(サロン・食堂・イベント等)

配食機能

生活支援機能

つなぎ機能

(本人〜家族〜地域)

相談支援機能

緊急対応機能

(柔軟な対応)

アウトリーチ機能

(生活の場で支援)

通い

宿泊

訪問

